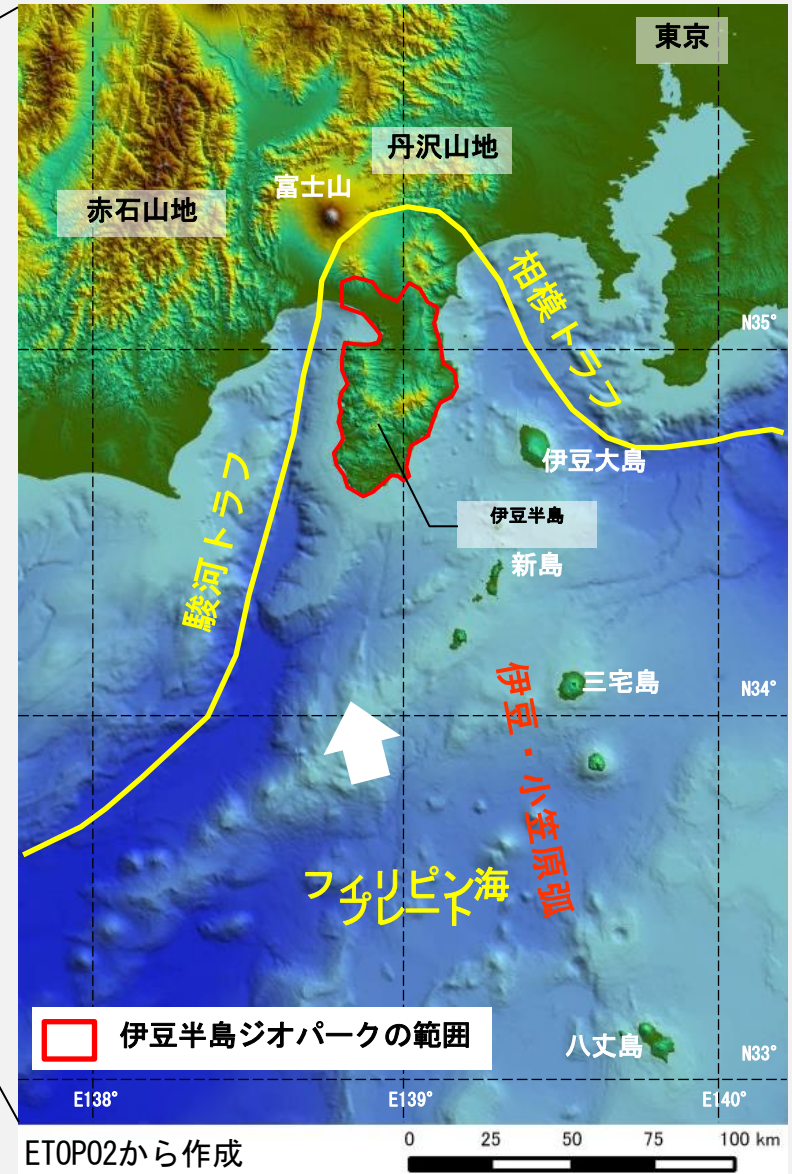
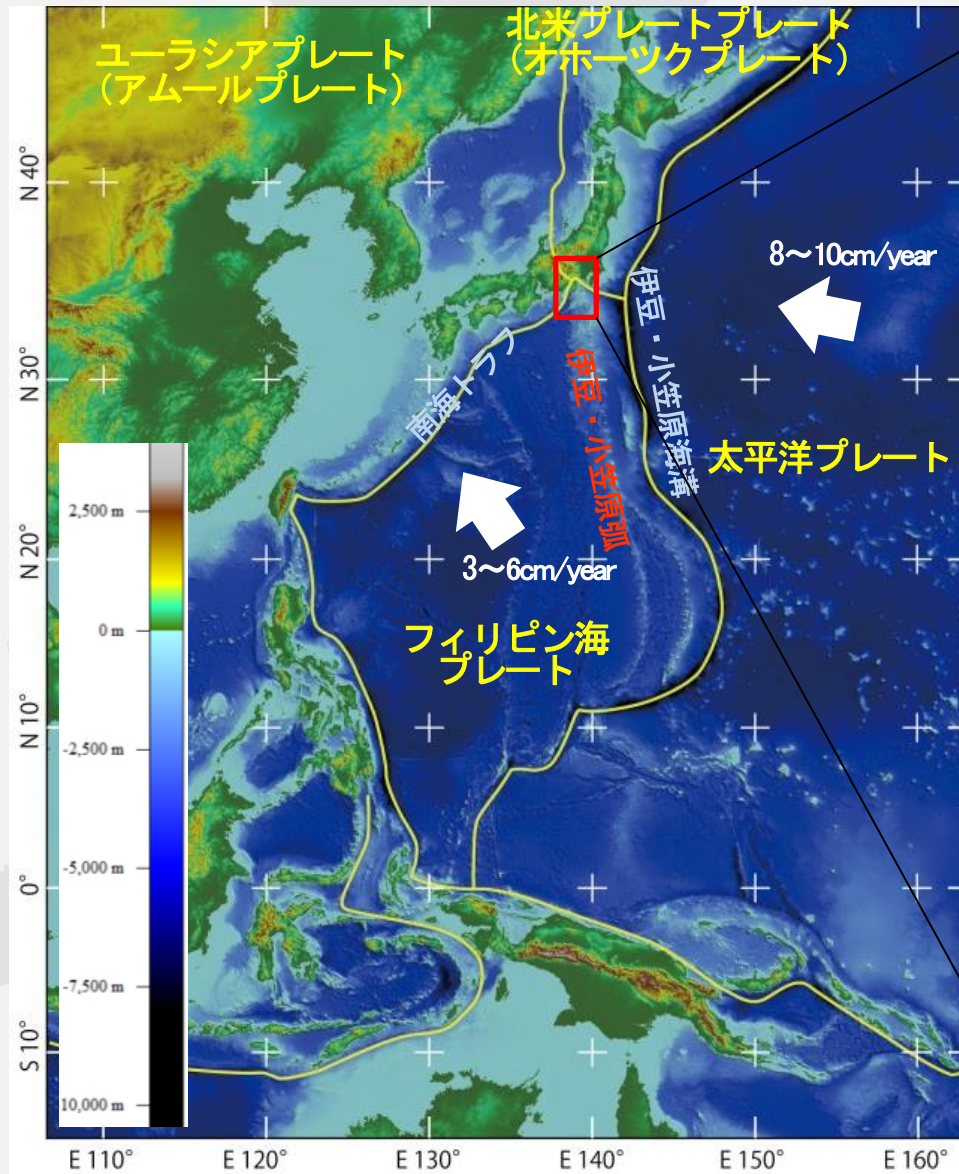


南から来た火山の贈りもの

伊豆半島ジオパーク
推進協議会



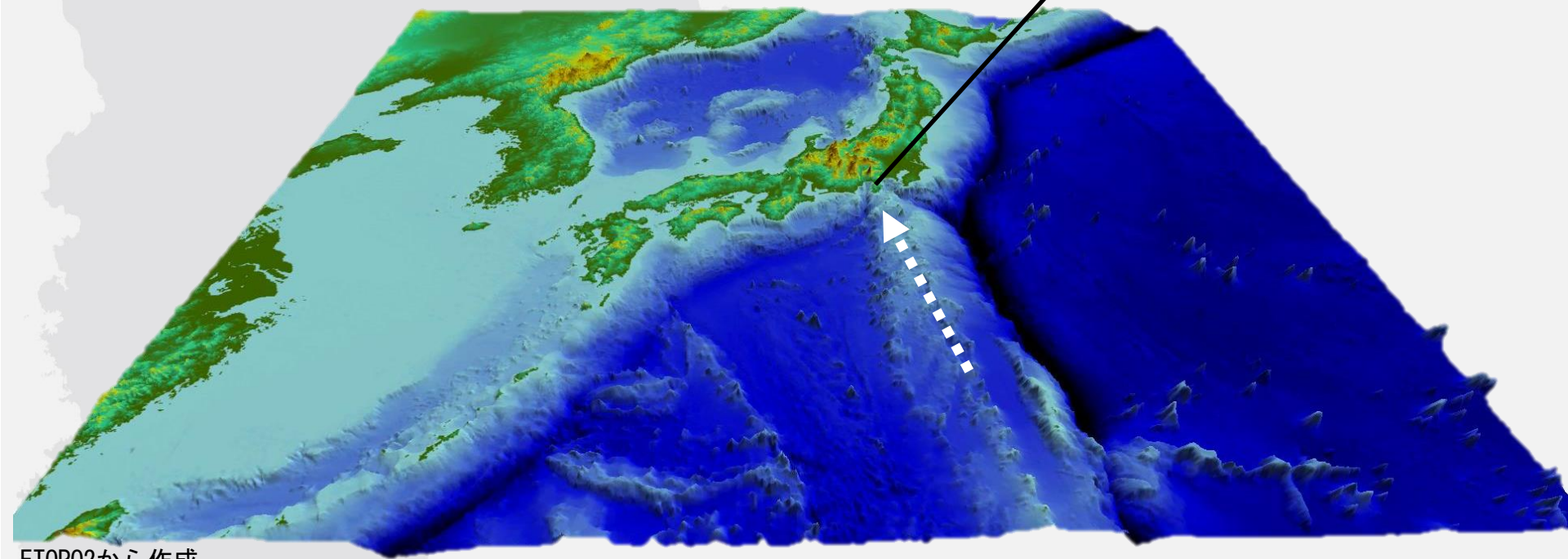
伊豆半島ジオパークの位置



伊豆半島は北上するフィリピン海プレートの最北端に位置する

本州に衝突・隆起した火山島－伊豆

伊豆半島



ETOP02から作成

本州に衝突・隆起した火山島－伊豆

南の海で
生まれた
海底火山

本州へ衝
突・隆起
↓
伊豆半島

陸地化して
からも続く
火山活動
地殻変動

そこに暮ら
す人々の
営み

- 海底火山から陸上火山への移り変わりや地殻変動の証拠が語るプレート運動
- さまざまな時代、噴火様式の火山のなごり

- 黒潮が流れる海に突き出した半島
- 陸上火山が作りだした高い山

- 半島の両側にはプレート境界が作る深い海

- 多様な景観
- 温泉、石材、鉱物資源
- 信仰、文化

- 多様な生態系
- 温暖湿潤な気候は南方系
- 雪も降る高い山には北方系

- 浅海性から深海生物まで
- 豊かな漁場

南から来た火山の贈りもの

海底火山から陸上火山へ

海底火山の時代



南伊豆町子浦
水底堆積した火山噴出物と岩脈



伊豆市梅木
衝突前にできた「海峡を埋めた砂や泥の地層」



大瀬崎南火道
陸上火山(大瀬崎火山)の火道断面

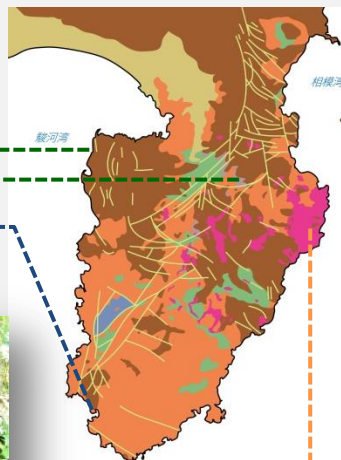
陸化後の大型火山



大室山と城ヶ崎
活火山・伊豆東部火山群

生きている伊豆半島

114ヶ所のジオサイトを巡ることでプレート運動に伴う
海底火山から陸上火山への移り変わりを実感する



本州への衝突

伊豆半島ジオパークの範囲とジオサイト



□ 伊豆半島ジオパークの範囲

▨ ジオサイト …114ヶ所

ジオポイント

● 一般向け …159ヶ所

● 学習向け …27ヶ所

● 研究向け …105ヶ所

● 限定利用 …22ヶ所



構成自治体数

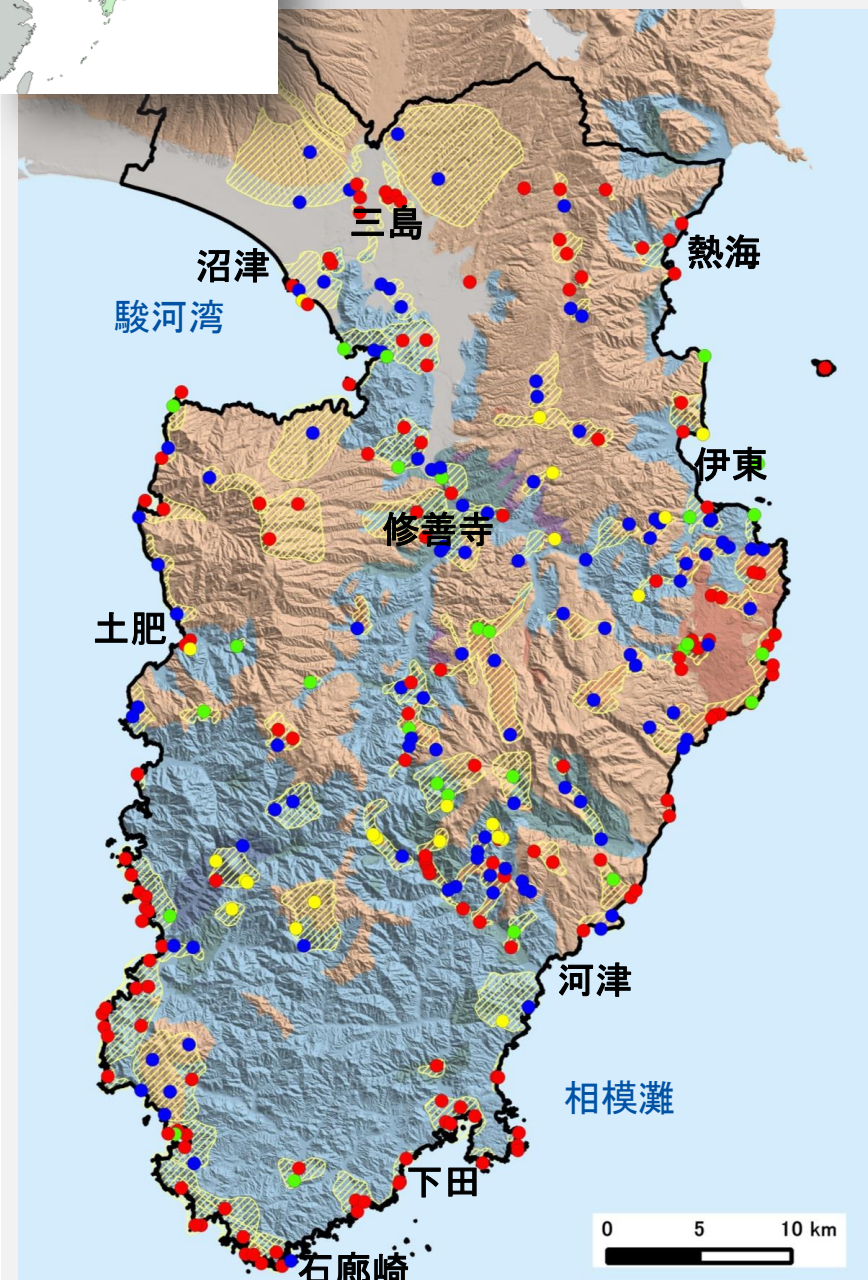
…15市町

総面積

…約1,585km²

総人口

…約69万人



主なジオサイト

堂ヶ島



海底火山時代：水底堆積した火山灰と斜交層理・海食洞窟

丹那断層



丹那断層：活断層の地形と北伊豆地震の痕跡

三ツ石岬



海底火山時代：水底堆積した凝灰岩を貫く岩脈



大室山と城ヶ崎海岸



伊豆東部火山群：スコリア丘と海に流れ込んだ溶岩流

生態系・歴史文化

半島の中に「温暖な気候の沿岸部」と「多雨で積雪もある高い山」が近接している
海岸樹林(ビャクシンやイヌマキ林)の一部は津波防災林としての機能も見直されてきている



イズアサツキ
海岸の岩場等に生える固有種



ナチシダ
伊豆半島付近が北限



イソギク
伊豆半島付近が北限



カワヅザクラ
オオシマザクラとカンヒザクラ
の自然交配種

火山活動や地殻変動によってもたらされた、さまざまな「贈りもの」



温泉
多数の温泉と温泉文化



熱水鉱床と鉱山
鉱山は伊豆に採掘技術や流通も
たらした



石材
地元だけでなく、江戸城や台場の建
築など広く流通した



信仰・祭り
火山噴火や地震などの厳しい自然と
暮らしてきた人々の祈り

ジオパークを学び楽しむために

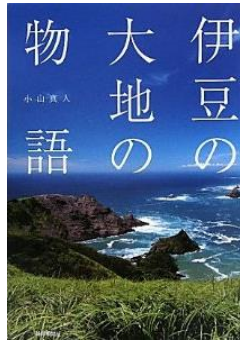
出版物



「ジオマップ」シリーズ

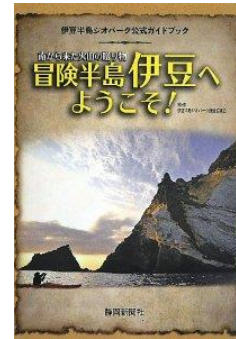
静岡新聞社・各500円

※新聞連載（「大地と生きる」など）や雑誌掲載多数



伊豆の大地の物語

静岡新聞社・1646円



冒険半島 伊豆へようこそ

静岡新聞社・1296円



火山のおみやげ 伊豆半島

ジオガイド自費出版
648円

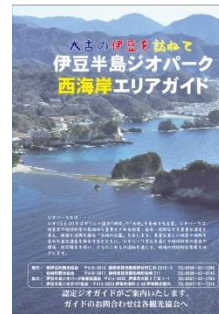
パンフレット等



総合案内・モデルコース



エリアガイド



スマートフォンアプリ



Geo Izu

現在iPhone用をリリース済

ジオパークを学び楽しむために

ネットワーク型ビジターセンター

「中央拠点施設」を軸に各地のビジターセンターをつなぐ

中央拠点施設

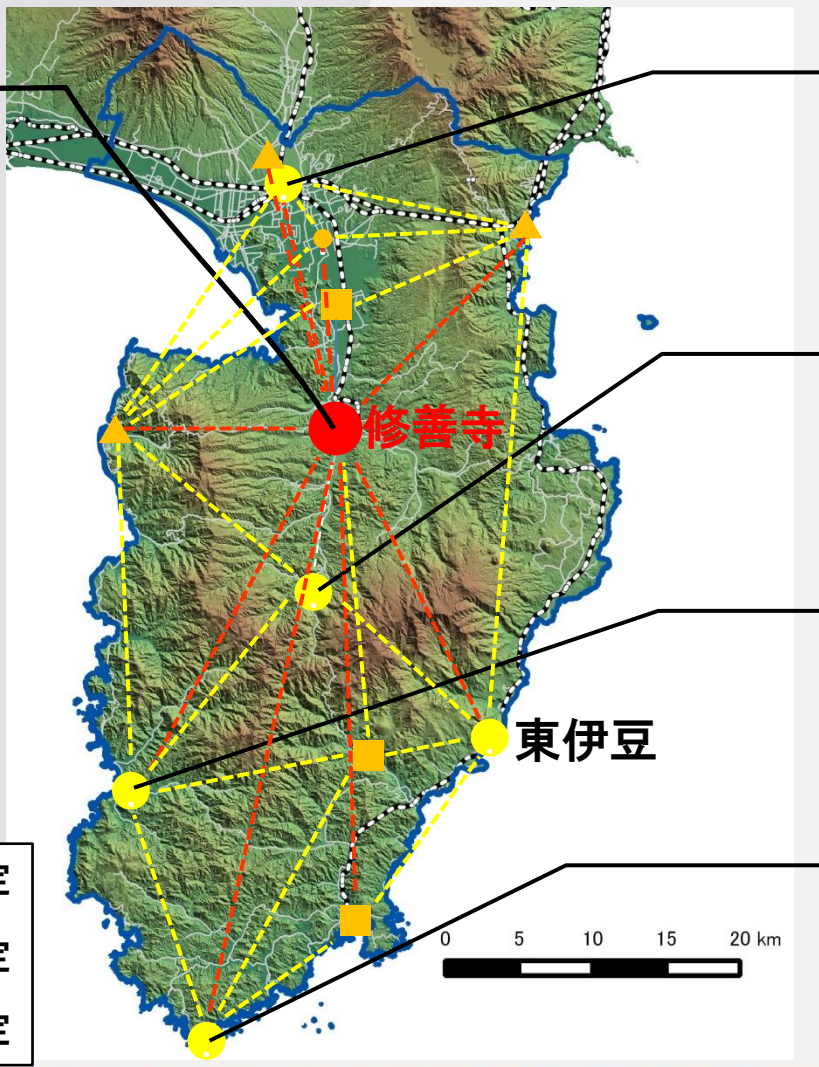
(2016年度予定)

- ・事務局機能
- ・研究員常駐
- ・各種展示・情報発信
- ・コンテンツの提供
- ・ガイドの拠点



修善寺総合会館

会館内の一部を改装予定



三島



天城



松崎



南伊豆

各地のビジターセンター（現在までに5か所に設置）
周辺エリアをはじめとして、ジオパーク全体の案内も行う

ジオパークを学び楽しむために

■ ジオガイドの養成

2014年4月までに**103名**のジオガイドが誕生
地域の牽引役として活動中

ジオ検定

養成講座

実地試験

認定ガイド

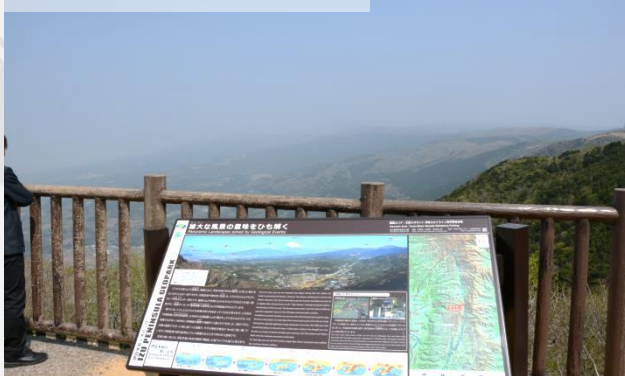
約2か月間の座学と野外実習
地球科学・動植物・歴史・ガイド術等

「伊豆半島ジオガイド協会」・・・認定ジオガイドの自発的な集まり
・ツアー等の受け入れ窓口
・スキルアップ講習会の実施
・他ジオパークガイドとの交流 など

■ 解説看板

2014年3月までに**85か所100基**を設置
地球科学的な解説だけでなく、関連した伝承や地域文化についても記述。

丹那断層を見おろす展望台



他ジオパークの紹介や比較も



伊豆弧の衝突で隆起した南アルプス



伊豆と室戸の
タービダイトの比較

ジオツアー・関連商品

これまでに推進協議会、ガイド及び各団体が主催したジオツアーは**357回**に及び、**1万5000名以上**が参加。NPO主催で他ジオパークへのツアーも。



各種ジオツアー
食や動植物・信仰・アクティビティと組み合わせた多彩なツアーが実施されている。



企業との連携
遊覧船や交通事業者と連携したツアー作りも進んでいる。

こうしたツアーをさらに楽しむために、各種商品開発や関連イベント等が行われている。随時開催のジオツアー商品も複数あり。



ジオガシ



伊豆ジオパン



ジオいけばな



ジオトレイン

ジオサイトの保全

＝国立公園や文化財等の法制度 ＋ 地域の取り組み ＋ 行政機関との連携

西伊豆町一色



地域の取り組みの例

町内会によるジオサイト保全協議会の立ち上げ

各地



行政の取り組みの例

土木・農林職員対象の研修会（年1回）

清水町柿田川



地域の取り組みの例（トラスト/ランドワーク）

三島・清水町などでの水辺環境回復運動など

■ 保全のためのデータベースとプランの作成

2013年

関連する自然文化資源の
調査・データベース作成

114ヶ所の「ジオサイト」について

- ・既存法制度
- ・関連する自然・文化資源
- ・関連しない自然・文化資源
- ・保全活動の状況
- ・利活用の現状

等を整理

※環境省との連携事業

2014年

保全計画の策定

- ・関連機関、住民、利害関係団体からなる部会
- ・保全や利活用の現状をふまえて
- ・役割分担の明確化
- ・計画見直しのための進捗管理や評価方法も検討

計画策定～

実施・モニタリング
計画の見直し

教育・防災

ジオパークは、県や市町の地域防災計画の中にも防災意識向上のためのツールとして位置づけられている

「美しい自然は災害の語り部」・・・郷土への愛着と自然の営みへの理解を目指して

■出前授業やこども向けイベントとして



出前授業

ジオガイドや協議会研究員による出前授業を毎年複数校で実施



地震火山こどもサマースクール
関連3学会と共催



学習イベント

定期開催イベントも行われており、自由研究の題材としても取り上げられている

■学校の自主的活動として



伊豆総合高校・松崎高校による先進的自発的取り組み
ジオサイトリーフレット作成・小学校への出前授業・ジオツアーの開催
伊豆総合高校はこれらの取り組みが認められ「ユネスコスクール」に認定された
総合学科ではジオパークが必修科目にもなっている

伊東高校美術部による「火山が作った伊東の大地」鳥瞰図作品
ロータリークラブの協力で地元小学校等へ寄贈された

■ジオツアーで



南伊豆町子浦
石段3段目まで安政
東海地震の津波が
到達したと言われる



カヤックツアーで
狩野川放水路を見学

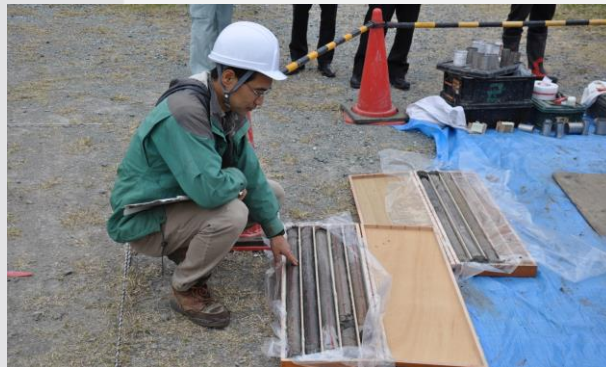
災害遺構や防災施設の見学を組み
込んだジオツアーの実施

調査研究

研究者の「わかった」を地域に、地域の「なぜ？」を研究者に
推進協議会学術顧問との共同研究や、他機関の研究補助の実施



手石海丘(1989年噴火)の火山ガス調査
静岡大学・東京大学ほか
調査結果を国際誌(JVGR)に投稿・掲載



南伊豆地域における津波堆積物調査
静岡大学・静岡県



伊豆大島近海地震(1978)の聞き取り調査
慶応大学・岩手県立大学・静岡大学

研究結果の地域への還元



講演会

伊東沖海底噴火から23年:海底火口の今

2012年12月16日(日)

静岡大学:野津憲治

東京工業大学:野上健治

海底火山噴火を語り継ぐ

2013年7月7日(日)

日本大学:鵜川元雄

カナリー諸島火山研究所:PEREZ Nemesio

伊豆半島南部における地殻変動と
津波堆積物調査

2013年8月4日(日)

静岡大学:北村晃寿

ほか

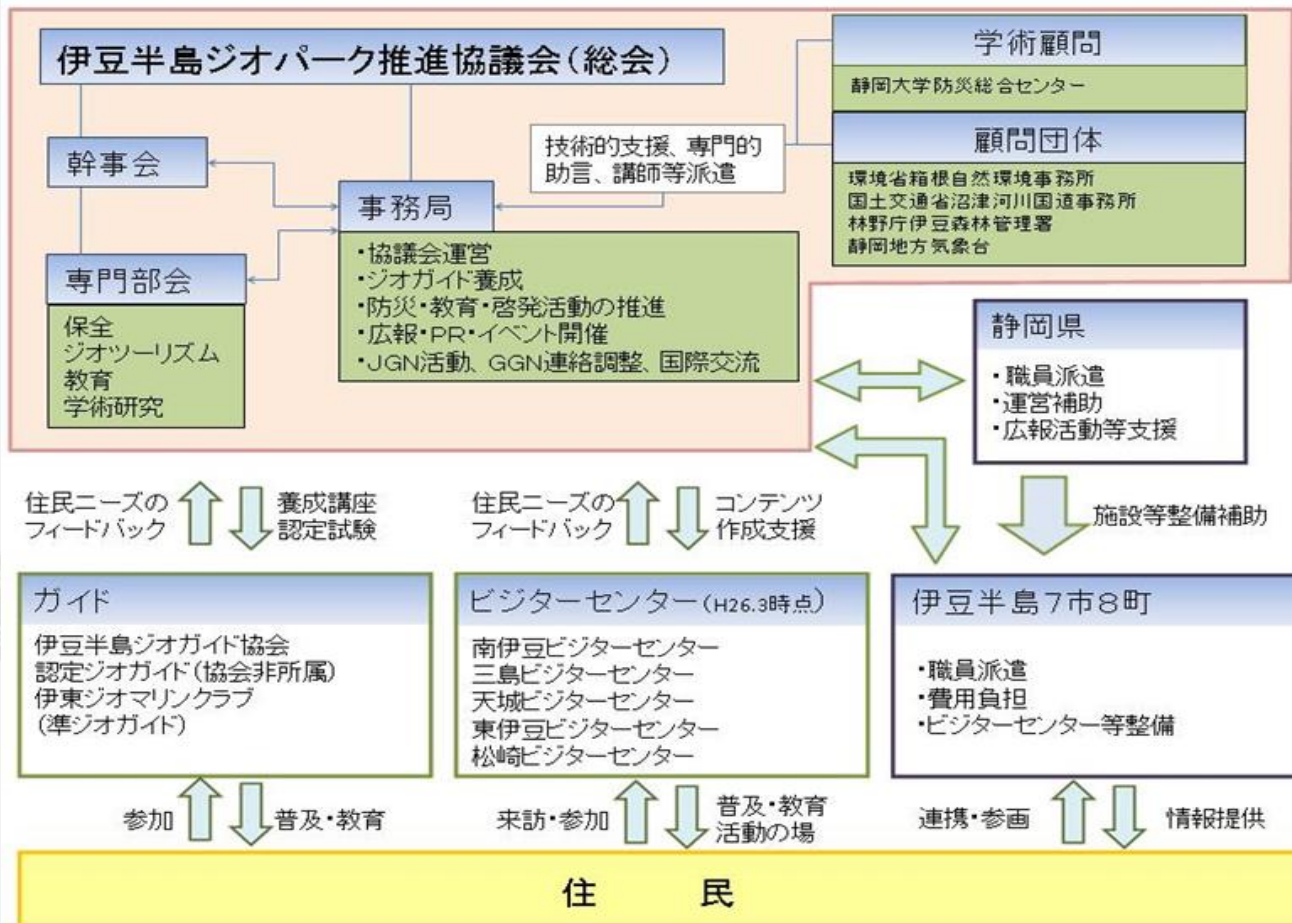
基本計画と運営組織

「伊豆半島ジオパーク構想指針書」 → 「基本計画+アクションプラン」

・・・活動開始から3年が経過

・・・2014年度上半期に策定予定

- ・住民ワークショップにより骨子を作成
- ・Webアンケートとヒアリングによる意識調査と課題抽出



推進協議会メンバー

- ・静岡県
- ・15市町
- ・観光関連団体
- ・商工会等
- ・ガイド団体
- ・各種NPO団体
- ・交通機関
- ・金融機関
- ・大学・高等学校
- ・関連する国の機関 など

学術顧問

静岡大学防災総合センター

事務局体制

8名体制(地質専門1名・人文地理・国際対応1名含む)

GGNメンバーとして

国内外のジオパークとの連携・交流を通じて実現していく

伊豆半島から地球を知る

地球の活動を感じられる世界で唯一のストーリー設定

日本列島と伊豆・小笠原弧の衝突、つまり活動的火山弧同士の衝突がまさに進行する現場という、世界で唯一のジオストーリーと、それらに根ざした豊かな自然環境やヒトの営みを楽しむことで、地球の営みを実感を持って知ってもらいたい。

地球を見る目を養う

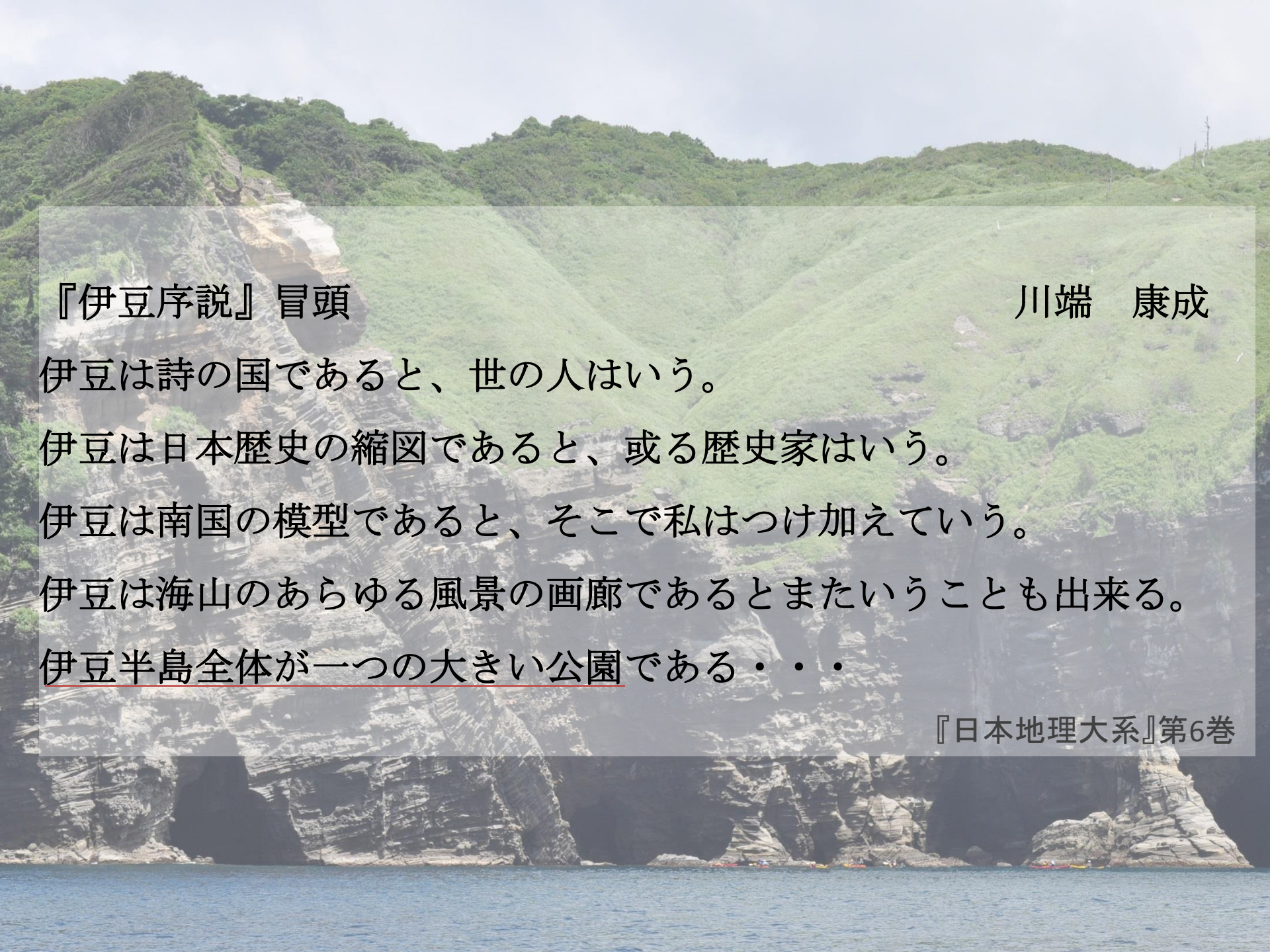
ジオパークを通じた新たな自然観と文化の醸成

身近な風景の成り立ち、地域社会・文化の成り立ちを知り、そのことを通じて地域社会の未来を見据えていく、そのような文化を形作っていききたい。

持続的な活動づくり

地域の文化としてのジオパークへ

ジオガイドや推進協議会関連団体を中心となり、ジオパークの活動が地域の自発的な取り組みとなってきた。これらの活動は地域の特性に合致した持続可能な開発・地域づくりを進めていく共通認識を育んでいる。



『伊豆序説』冒頭

川端 康成

伊豆は詩の国であると、世の人はいう。

伊豆は日本歴史の縮図であると、或る歴史家はいう。

伊豆は南国の模型であると、そこで私はつけ加えていう。

伊豆は海山のあらゆる風景の画廊であるとまたいうことも出来る。

伊豆半島全体が一つの大きい公園である・・・

『日本地理大系』第6巻